

# 25 journal

society&business Tokyo25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

## 青梅在住の大倉十彌也さん、82歳で初個展開催

# 1000点超の作品描く



初個展に向け作品を整理した大倉さん

青梅市在住の大倉十彌也さんが9月10日から、82歳で初の個展となる「思い出のスケッチ展」を「ぎやらりーカフェはこ哉」(青梅市住江町)で開いている。外国や国内で描いてきた1号~4号のスケッチ画を、前期・後期に分け40点ほどを展示。50冊に上るスケッチブックも公開する。



個展の案内はがきには長女の恵さんの思い出が詰まった青山(港区)のジャズクラブ「BLUE NOTE TOKYO」のスケッチを選んだ

1967(昭和42)年、大学4年のとき、文科省(当時文部省)主催の海外派遣事業で、青梅市から選ばれ欧州を巡った。現地でレタ

ツチを始めた。翌年、青梅市職員に。社会人になってからもスケッチブックは傍らにあり、いつしか道具はサインペンと水彩絵の具になっていった。同市郷土博物館管理係長時代に、「桶、樽その伝統と桶職人の技術」を刊行した際は、桶などの道具を小まめにスケッチし、絵の腕前が大いに役立った。スケッチ画を描いて気がつけば58年。国内は津々浦々、外国は南米、オーストラリアを除いて足を運んだ。名だたるアメリカ歴代大統領の顔が刻まれたマウンストラッシュモア、エジプトの世界遺産アブ・シムベル神殿、ジ

リニストの大倉めぐみさんが世界的なジャズ・テナーサクソ奏者のマイケル・ブレッカーさんと共演した店でもある。作品には宴会やパーティーの際の料理を描いたものもある。今なら誰もがインスタグラムやフェイスブックに配信するものだが、大倉さんのスケッチを通して、おもてなしの心が浮かんでくる。後期には、こうした作品も展示する。「青梅うんちく散歩」のガイド役や「青梅再発見」の著者でも知られる大倉さんは「とりとめもなく描いた、点で残したような記録が、続けることによる形になった喜びを感じる。絵は人生を文化的に豊かにしてくれ」と振り返る。開催時間は10時~18時(15日・16日は定休)。入場無料。9月21日まで。

## 都13町村の住民の暮らし守り、向上を



「課題の1つが交通政策」と熱く語る師岡会長

東京都町村会の会長を任せられ3カ月、師岡伸公奥多摩町長は、国と都のパイプ役をしっかりと果たし、西多摩4、島しょ9の13町村の住民の暮らしを守り、向上させたいという。

100年以上の歴史を持つ町村会は町村同士の連絡と調整や、地方自治についての調査研究などを行うことで、地方自治の振興、発展を図るのが目的。国や都に予算措置などで要望活動を行い、声を届けている。昨年は子育て世代の経済負担軽減に関する緊急要望を提出している。三多摩格差、西多摩格差に引き合い、どれだけ差を埋めるかは町村会の長年の課題だ。

「インバウンド対策1つをとってみても浅草と西多摩では全然違う。言語の問題、置き去りゴミの防止、オーバートーリズムへの対処などに取り組まなければ」と決意する。「山崎栄瑞穂町長東亨日の出町長を新たに迎え、町長5年目の私が経験不足ながら会長を任せられた。幸い吉本昂二檜原村長を含め横のつながりは太い。西多摩の4町村、島しょを含め13町村の声をしっかりと都政に届けた」と前を向く。

地域ともに25年、家庭的で温もりあるケアが安心と信頼を育んでいます。

老人デイサービスセンター 福楽園  
高齢者在宅サービス増進センター

社会福祉法人 豊生会 特別養護老人ホーム 福楽園

TEL 042-596-4112 FAX 042-596-4176

東京都町村会会長 師岡伸公奥多摩町長